

メダイの漁業・資源生態および資源特性値に関する研究

【研究概要】

八丈島周辺海域におけるメダイについて、漁獲状況、漁獲測定、加入・回遊経路調査等から資源生態の基礎的知見を収集し、資源量を推定する。

- ① 5~12月に計8回の試験操業を行い、漁獲水深および水温データを計21個体分（黒潮外側域）収集した。
- ② 八丈島周辺で漁獲した83尾および大島周辺で漁獲した3尾のメダイについて、精密測定を行った。また、漁港にて96尾のパンチング測定を実施した。
- ③ これまで得られた耳石切片を用いて年齢解析を実施した。年齢査定結果からAge 銘柄 Key を作成した。また、たくなんにて採集したメダイ幼魚16尾の耳石微細輪紋を計数した。輪紋を日周輪と仮定して解析した結果、推定ふ化日は2~4月の間であった。
- ④ 三重県から提供を受けたメダイ幼魚11尾の精密測定を行った。うち9尾について耳石微細輪紋を計数した。輪紋を日周輪と仮定して解析した結果、推定ふ化日は1~4月の間であった。
- ⑤たくなんにて採集したメダイ幼魚9尾にALC染色を2回行い、耳石を蛍光顕微鏡で観察した。1回目の標識を確認できたのは5尾、2回目の標識を確認できたのは6尾であった。
- ⑥ 3~4月に計5回の流れ藻調査を実施し、メダイ幼魚を22尾採集した。
- ⑦ 5月および12月に2尾の標識放流を実施した。2024年3月に尾叉長56.0cmで放流した個体が、同5月30日に放流を実施した海域で再捕された。